

# 生丹上 地域の絆 物語

絵  
図  
を  
介  
し  
て  
つ  
な  
が  
る  
地  
域  
と  
世  
代

## 「心象絵図」が

## 間もなく完成

霊仙山に抱かれ、丹生川と宗谷川が落ち合うところに集落が広がる上丹生地区。ここでは、地域のまちづくり団体「上丹生プロジェクト」によって、「心象絵図」の制作に取り組まれています。

心象絵図とは、地域に暮らす人々の心に息づく思い出を聞き取り、当時の生業の様子や生活風景、祭りや自然など、思い出のひとつコマひとつコマを一枚の大きな絵図に仕上げるというものです。

絵図の完成に向けて、2年越しで取り組まれている上丹生の大きなプロジェクトに密着しました。

### 人々の「身識」を問う 五感体験アンケート

平成21年6月、絵図づくりは、昭和30年代を時代設定に、各家庭に「五感体験アンケート」を依頼することから始まりました。このアンケ

ートは、教科書などから得られる「知識」ではなく、人々が地域に根ざして生きる中で、みずからの身体で経験してきた「身識」を問うものです。

そして、その結果、「土間にはおどさんがあって、どの家の煙突からも煙が出ていた」、「川で泳いだ後は、分教場の石柱に抱きついて体を温めた」など、目で見たり肌で感じたことなど、約1500にも及ぶ貴重な声が集まりました。

### ひとつの話題が呼び水に あふれ出す物語 聞き取り会

アンケート結果は、滋賀県立大学の学生の協力を得ながら整理が進められ、そして10月、高齢者のみなさんに呼びかけて第1回目の「聞き取り会」が開催されました。

聞き取り会の目的は、アンケートで寄せられた声の断片を導きとし

て、地域の暮らしの物語をつむぎ出すこと。

アンケートでは短い言葉だったことが、聞き取り会ではひとつの話題が呼び水となり、記憶のスイッチが入ったかのように、次から次へと話が広がっていきます。生活のための手段として多くの人が炭焼きをしていたことや、かつては上丹生にも造り酒屋があり、通いビンをもってお酒を買いに行ったことなど、たくさん物語が引き出されていきました。

この聞き取り会で印象深かったのは、高齢者のみなさんが、身振り手振りを交えて、生き生きとした表情で語っている姿。そして、その語り手の人生を通じて地域の歴史に触れた聞き手が共感している様子。その光景は、お互いがふるさとへの誇りを確認しあっているかのようにも見えました。



「サラリーマンは2人だけで、みんな職人や山仕事をしてたんや」と、当時の様子を元気に語る90歳の山田義弘さん。



聞き取り会の様子。たった1枚の写真から、地域の豊かな物語が次々とあふれ出します。ひと言ひと言が大切な地域資料です。



アンケートの分類作業は手間がかかるものですが、若い世代にとって、ふるさとの知らない一面を発見するきっかけになりました。

## 百聞を一見にする 絵図の制作

一方で、地元で木彫を生業とする寺田秀昭さんが絵師となり、絵図の制作も進められていました。

昨年の秋頃から、4畳分ほどもある大きな和紙に下絵描きを始め、山や川といったスケール感のある風景から、集落の家や村人の細やかな表現へと、緻密な作業が続きます。

「今の上丹生にない光景を絵に起こすことは、思いのほか難しく、苦労しています」と、寺田さん。作業の間には、どうすれば上丹生らしさを表現できるか、どうすれば子どもたちにも当時の様子がわかりやすく伝わるかなど、メンバーと議論を交わしながら作業が進められ、現在では地域の若者が2人加わって、仕上げの色付けが行われています。

## 「完成」といって 「はじまり」の回わり

絵図の作業も終盤にさしかかった5月、語り手たちが絵図の前に立ち、描かれているできごとについて語る「絵解き」の練習が行われました。

最初のうちこそ遠慮がちな様子でしたが、語り部と観客とのかけ合いで盛り上がり、民具を使った実演も披露され、集まっていた子どもたちも興味深く聞き入っていました。



心象絵図の提唱者であり、上丹生の制作活動を見守っておられる上田洋平さん（滋賀県立大学地域づくり教育研究センター）からは、「心象絵図の取り組みで大切なことは、完成した後には、どれだけ絵図を活用するかということ。絵図を仲立ちにして、ふれあいの機会をたくさん作り、思い出を育てていくってほしい」と、エールが贈られました。

そして、上丹生心象絵図の中心メンバーである寺田幸彦さんは、「聞き取り会を楽しみにして集まってくれる人も増え、絵図の作成過程を通じて、地域の絆が強まったと実感しています。」



絵解きの練習での実演説明。会場には通りピンなど様々な民具が用意され、語り手の物語に臨場感を演出していました。

## 心象絵図 完成披露会

8月7日(日) 13時から  
上丹生公民館にて

お問い合わせ  
上丹生プロジェクトK  
代表 吉田英治  
(☎54-1928)

<http://www.zb.ztv.ne.jp/image/top.html>

絵図は完成してからがスタートです。メンバーとアイデアを出しながら今後の活用方法を工夫して、元気な上丹生を発信していきたいです」と、熱く語ってくださいました。

昔ながらの暮らしが丁寧に描かれた庄巻の心象絵図が、いよいよ夏に完成します。

みなさんも、百聞を一見にする心象絵図と、いきいきとした上丹生の人々の笑顔に出会いにいきませんか。